

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
分担研究報告書

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者 石田 孝宣 東北大学大学院 乳腺・内分泌外科学分野 教授

研究要旨：本研究の3年目から分担研究者として参加。東北地方のAYA世代がん患者に対するケアシステムの現状を調査し、構築が遅れていることを確認した。東北大学病院において診療科横断的な本システムの構築が必要と判断された。

東北大学病院内の腫瘍評議会に提案し、WGの設立が認可され、活動を開始した。東北大学病院内における横断的なAYA支援チームが結成された。東北大学病院 AYA 世代がん患者に対するケアシステム WG 会議の構成メンバーとして、本研究分担者が科長を務める総合外科、および血液内科、腫瘍内科、整形外科、緩和医療科、婦人科、脳神経外科、精神科、小児科、看護部、診療録管理部門、地域医療連携部門のがん相談員・ソーシャルワーカーなどがWG委員として選出され、横断的なAYA支援チームのモデル作成を開始した。

今後、東北各地の基幹施設と連携して、各施設の情報や問題点を共有し、東北全体でAYA世代がん患者をサポートできる仕組みを構築することを目標とする。

A. 研究目的

東北地方におけるAYA世代がん患者に対するケアシステムの基盤整備、およびAYA支援チームのモデル作成を行う。

B. 研究方法

本研究の3年目から分担研究者として参加。東北地方のAYA世代がん患者に対するケアシステムの現状を調査し、東北大学病院に診療科横断的な本システムの構築が必要と判断した。

東北大学病院内の腫瘍評議会に提案し、WGの設立が認可され、活動を開始した。東北大学病院内における横断的なAYA支援チームのモデル作成に着手した。

C. 研究結果

(1) 東北地方の大学病院、および中核病院を対象に AYA 世代がん患者に対するケアシステムの存在を調査した。その結果、福島県立医科大学の腫瘍内科で立ち上げが確認されたが、病院全体のシステムには至っておらず、他の施設でも横断的システムは確認できなかった。

(2) 東北大学病院内では、小児科や血液免疫科などの診療科で個別に対応しているもの

の、大学病院内を横断的に統括するシステム・チームは存在していなかった。日本各地域での本システム構築の現状や取り組みを調査し、東北大学病院内でも本システムの構築が必須と判断した。

(3) 本研究分担者が診療部会長を務める東北大学病院腫瘍評議会に上申した。本ケアシステムの必要性が認められ、東北大学病院内に AYA 世代がん患者に対するケアシステム WG の設置が認可される。

(4) 2020年11月29日に開催された第2回AYA世代支援チーム養成プログラムに東北大学病院チームとして参加し、受講した。あわせてモデル施設となっている聖路加国際病院、国立がん研究センター中央病院、静岡がんセンター、九州がんセンターなどの病院の取り組みについて動画を視聴し、情報を収集した。

(5) 東北大学病院 AYA 世代がん患者に対するケアシステム WG 会議の構成メンバーとして、本研究分担者が科長を務める総合外科、および血液内科、腫瘍内科、整形外科、緩和医療科、婦人科、脳神経外科、精神科、小児科、看護部、診療録管理部門、地域医療連携部門のがん相談員・ソーシャルワーカーなどが WG 委員として選出される。

(6) 第1回、第2回の東北大学病院 AYA 世代がん患者に対するケアシステム WG 会議を開催。設立の趣旨を共有するとともに、各診療科における現状での個別の取り組みと問題点、診療科横断的に解決すべき優先課題、等について討議を開始した。

D. 考察

東北地方においては、AYA世代がん患者に対するケアシステムの構築が遅れているため、東北大学病院が中心となって、基盤を整備する必要がある。これまで、東北大学病院の各科・各部門は、その必要性を認識して独自に活動してはいたものの、病院全体として組織横断的な活動は行われてこなかった。

今回の思春期・若年成人 (AYA) 世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究に研究分担者として参加する機会を得たため、これを契機に東北大学病院全体で新たな取り組みに対して機運が高まっている。今後、定期的に WG 会議を実施し、東北大学病院内での AYA 世代がん患者に対するケアシステム構築のための案を策定するとともに AYA 支援チームのモデルを作成する。本 WG で取りまとめた内容は、東北大学病院腫瘍評議会に上申し、病院をあげて取り組む予定である。

また、東北大学病院以外でも同様の活動を計画している施設、たとえば秋田大学病院等とも連携して、各施設の情報や問題点を共有し、東北全体で AYA 世代がん患者をサポートできる仕組みを構築することを今後の目標とする。

E. 結論

東北大学病院内での AYA 世代がん患者に対するケアシステム構築のための WG が発足し、基盤整備が開始された。今後、東北各地の基幹施設と連携して、各施設の情報や問題を共有し、東北全体で AYA 世代がん患者をサポートできる仕組みを構築することを目標とする。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし